



一般社団法人 Tokyo Professional Engineer Inc.

東京技術士会

PEIT Letter

No.08 (2012.7.15)

会長の
時流散歩

徒然に思う

会長 二宮 孝夫

今までに税と社会保障の一体改革関連法案が衆議院で可決されたところであります。国家を国民の安全・安心に軸足をおいて政治をするには、財源確保は最重要事項である事は万民意見の一致するところであると信じています。その財源が必要な一例を紹介します。

国土交通省は2012年5月末、「社会资本整備重点計画(2012年～16年度)」の最終案をまとめました(J-CASTニュース6月11日)。これによりますと;

- 10年後には全国15万余りの橋の中、寿命と言われる築50年は現在8%だが、10年後には26%(約4万か所)に達する。通行規制を受けた橋は2008年の680ヶ所から3年間で1129ヶ所へと1.5倍に増えている。
- 水道管の老朽化も全国で深刻な問題になっており、例えば、京都市内で水道管120kmの早急な取替えが必要と言われているが、今のペースでは200年かかるという。



- 国交省の推計では、港湾、下水道、住宅などインフラ8分野の維持・更新費用は50年間で190兆円というとてつもない数字になるが、財源の見通しは立っていない。
- 自民党はやはり5月末に「国土強靭化基本法案」を発表し、10年間で公共事業に200兆円を投じる構想を打ち出している。「防災の考え方」に立ち、有効需要を作るのが狙いといわれる。

財源、安心・安全、を判断基準とした選択と集中には、行政と関係する業界が足並みを揃えてインフラの寿命・需要・補修策を評価をせねばなりません。その中でも専門家プロフェッショナルである技術士の評価力・判断力が求められています。一般社団法人東京技術士会は常に、社会のお役に立ちたいと日々努力しています。

第15回産業交流展に出展します

中小企業による国内最大級のトレードショー、産業交流展2012に参加します。東京技術士会としては昨年、一昨年に続いて3回目の参加になります。首都圏(東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県)に事業所を有し、情報、環境、医療・福祉、機械・金属のいずれかに属する中小企業・団体などが集結します。昨年は896の企業・団体が参加し、5万人を超える来場者がありました。東京技術士会のブースでは活動内容の紹介と、関連中小企業様の製品を展示して技術者、経営者の皆様のおいでをお待ちしております。

お知らせと
カレンダー

▶ 東京技術士会に興味のあるお客様と業務相談のあるお客様

東京技術士会

検索

でアクセスしてください。

- ▶ 入会問合せ、入会申込みをなされる方、上記と同様にHPにアクセスしてください。
- ▶ PEIT会員向け定例会議情報(毎回13:00～17:00港区生涯学習センター)、7月27日(水)、8月22日(水)、9月26日(水)、以降、第4水曜日を予定しております。皆様ご参集ください。

▶ 開催期間

平成24年11月20日

21日・22日

▶ 会場

東京ビッグサイト

東2・3ホール

産業交流展2012



『構造化テクニカルライティングのすゝめ』 技術士に限らず、技術者の多くにとって、報告書を作成することは日常的な業務でしょう。

そして、わかりやすく、読みやすく、適切な報告書を作成するための、テクニカルライティングをまとめました。特に、構造化とパラグラフを活用することを提示しております。皆様、ご活用ください。【秋元、西角井、平野著、有限会社納諾相研究所出版プロジェクト、2100円(税込み)】



SCM、ロジスティクスを含む物流の環境の変化は、商品寿命の短縮化・多品種少量化、少子高齢化、グローバル化、安全・安心意識の高まり 等々です。

現在それで、どんな課題があるのでしょうか。

- ・サービスレベルの向上特にリードタイムの短縮
- ・効率化によるコストダウン
- ・環境対応、災害対策・事業継続
- ・人材育成

等々です。

そして、取られている施策例は、

- ・サプライチェーン特に Order fulfillment の見直し
- ・無駄な在庫の削減
- ・トレーサビリティの強化
- ・宅配・個配機能の強化
- ・エコ包装・梱包への取組み
- ・新エネルギー・コジェネ等の検討
- ・トラックを含む輸送機関の見直し、共同化
- ・3PL化・パートなど外部力の活用
- ・人時生産性の向上・人材教育の充実
- ・作業の標準化と業務改善活動の強化

等々です。

それを実効あるものにする基本的な考え方は

- ・リードタイムの間に何が出来るかと予測による準備
- ・各項目間のトレードオフのバランスをとる。
- 効率化とコスト・環境対策・安全性
- オンリーワンの差別化と共同化・標準化のメリット
- 機械と人の活用
- ユニットロードとロングテールの取扱いの整合性
- ・時間と場所の管理メッシュの細分化と実績の見えるか
- ・ボトルネックの発見と解消、ITの活用
- ・各種センター、機器の配置や合理化
- ・人をどう生かすかと、報酬制度

等々です。

どのレベル・領域で考えるかは

- ・調達、生産、販売、回収(静脈)、第3次産業の現場即ち工場、卸、流通(倉庫、各種センター、インフラ現場等)事務所、店舗、ホテル旅館、病院、学校、図書館、博物館等々あらゆる場所で、あらゆる部門で行われます。

課題・問題の把握、分析、対策の立案、実行サポート評価をするに当たり、論理的思考、各種事例を生かし、創意工夫により、客の状況にあったサポートをします。

IT(情報技術)の活用には、インターネットなどの通信が必須となつてきているため、ICT(情報通信技術)と一般的に言われるようになってきました。

また、現在のICTの大きな潮流としては以下のものがあります。

1. クラウドコンピューティング
2. ソーシャルコンピューティング
3. モバイル活用
4. ビッグデータ活用(大企業中心)

当SIGでは、このような流れのもとに中小企業様等のICT活用をより広くご支援させて頂くために、「ICT活用支援センター(略称:ICTC)」と名称を変更させて頂きました。

ICTの活用には、そのほかシステムの導入・運用管理費用の削減、セキュリティ対策、IT要員不足などの課題もあります。

当SIGは、中小企業様等のこうした課題を解決するためのご支援を行い、ICT活用による業績向上に寄与いたします。

・クラウドコンピューティング

所有から利用の流れの中で、SaaS(Software as a Service)のように各種アプリケーションをインターネット経由で活用できるものや災害時の事業継続計画(BCP)にも必要な遠隔地へのデータセーブなど各種サービスが利用できます。

・ソーシャルコンピューティング

ツイッターやFacebook、ブログに代表されるソーシャルメディアを利用することにより、受注促進にも活用できます。

・モバイル活用

スマートフォンやタブレット端末などパソコン以外の携帯端末の活用により、上記の活用が更に促進されます。

・システム導入/運用管理費用削減

無料のオープンソースソフトウェア活用の廉価なシステムやプログラムレスのシステム自動開発ツール「GeneXus」などによりシステム導入/運用管理費用が削減できます。

お問い合わせ先

下記方法で[オフィシャル・サイト:一般社団法人 東京技術士会]にアクセスし、[お問い合わせ]のボタンをクリックして通信文をご記入ください。

| | |
|--------|----|
| 東京技術士会 | 検索 |
|--------|----|

おくづけ

PEIT Letter Vol. 08

発行年月 2012年7月15日

発行者 一般社団法人東京技術士会

<http://www.tokyo-gijutsushikai.jp/index.htm>

年4回発行 季刊 定価50円

